



African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター
2022（令和4）年度活動報告

目次

1. 概要
2. 活動実績
 - 2.1. 研究活動
 - 2.1.1. 学術ジャーナル刊行
 - 2.2. 教育活動
 - 2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献
 - 2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」
 - 2.2.3. 大学の世界展開力強化事業（アフリカ）への協力
 - 2.3. シンポジウム・セミナー
 - 2.3.1. ガーナとの共同セミナー
 - 2.3.2. ASC セミナー
 - 2.3.3. JSAS 年次総会への協力
 - 2.3.4. その他、協力イベント
 - 2.4. 人的交流
 - 2.4.1. 研究者招へい
 - 2.4.2. 留学生招致活動
 - 2.5. 社会貢献、ネットワーキング
 - 2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）
 - 2.5.2. 第5回南アフリカ・日本大学フォーラム（SAJU フォーラム）
 - 2.5.3. その他
 - 2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信
 - 2.6.1. センター公式ウェブサイト
 - 2.6.2. SNS（フェイスブック、ツイッター）
 - 2.6.3. メーリングリスト
3. センターの人員構成

4. 活動記録
 - 4.1. ASC セミナー一覧
 - 4.2. その他の主催・協力イベント一覧
 - 4.3. 主要来訪者
5. センター教員・研究員の業績
 - 5.1. 研究活動
 - 5.1.1. 著作（単著・共著・編著）
 - 5.1.2. 論文
 - 5.1.3. エッセイ、その他
 - 5.1.4. 学会・シンポジウム
 - 5.1.5. 一般向け講演
 - 5.1.6. 企画・運営・事務局等
 - 5.2. 教育活動
 - 5.2.1. 本学内における今年度担当授業
 - 5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動
 - 5.2.3. 修士・博士論文指導
 - 5.3. 対外活動、社会貢献
 - 5.3.1. 外部機関からの委託業務
 - 5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応
 - 5.4. 外部資金の獲得
 - 5.4.1. 代表者
 - 5.4.2. 分担者
 - 5.5. 受賞

別添

UG-TUFS Joint Seminar Programme, ASC セミナーチラシ一覧

1. 概要

2022年度はコロナ禍からの復活を記す1年であった。まだ制約は残っているものの、大学全体としても「ポスト・コロナ」、「ウイズ・コロナ」の活動へと舵を切り、本センターもそれに合わせる形で活動を進めた。

アフリカ研究者、アフリカ人留学生の招へいについては、十分な実績を残すことができた。春学期1名、秋学期2名の研究者をガーナ大学、マルア大学（カメルーン）、ンバララ工科大学（ウガンダ）から招へいし、学部生向け講義を開講してもらった。また世界展開力強化事業（アフリカ）の枠組みで来日した PIASS（ルワンダ）とザンビア大学の学生に対して、現代アフリカ教育研究基金から生活支援金を提供した。

セミナー、シンポジウムに関しては、コロナ禍前の水準に戻りつつある。今年度は ASC セミナーを11回（うち国際セミナー9回）開催した。そのうち2回は Zoom 配信（うち1回は南アフリカからの配信）で、9回はハイブリッド形式で実施した。ハイブリッド形式であれば、本学学生に直接講師と対話する機会を提供しつつ、世界各国からの参加者を得ることができる。

そして、コロナ禍のために延期が続いていたガーナ大学との共同セミナーを2023年3月に実施することができた。発表者総数は41名に上り、ガーナ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ルワンダ、モザンビーク、ザンビア、南アフリカ、そして日本から参加者が集まる大規模な会議となったが、“State and Rural Resource Management in Africa”の総合タイトルの下に、2日間にわたり熱心な議論がなされた。

自分たちが主催するセミナーに加えて、研究集会の事務局として協力する機会もあった。7月には、在日アフリカ人研究者を中心に組織された「日本アフラシア学会」(JSAS)の年次大会の事務局を務めた他、2019年に続いて、「南アフリカ・日本大学フォーラム」(SAJU フォーラム)の日本側事務局を筑波大学とともに務めた。こうした活動は、研究交流のプラットフォームを支えるという意味で重要な意味を持つと考えている。

現代アフリカ地域研究センターの活動は、世界展開力強化事業（アフリカ）、JAAN（日本アフリカ大学連携ネットワーク）議長校といった本学が実施する別の事業や、共同サステナビリティ研究専攻、Peace and Conflict Studies（PCS）といった本学の教育活動との連携を深めながら活発化してきた（共同サステナビリティ研究専攻は本学が東京農工大学、電気通信大学とともに組織している博士課程プログラム。PCSは本学の修士課程プログラム。いずれも英語を教育言語とする）。6月に開催されたアートイベント“Feel Africa”や、11月に開催された留学生交流会は、世界展開力強化事業との協力なくして実施できなかった。SAJU フォーラムや世界展開力強化事業（プラットフォーム事業）には、JAAN 議長校としての活動が深く関わる。こうした連携の深まりは必然であり、もとより期待されたところでもある。このような形で本センターの活動が広く周知されることで、学内、学外でのアフリカへの関心も高まるであろう。

アフリカへの一般的な関心を維持するためには、しっかりした研究成果が必要になる。ガーナセミナーの実施はアフリカのアカデミアとの共同研究基盤構築という点で、重要な意味があった。またジャーナル化して3年目を迎えた ASC-TUFS Working Papers についても、J-stage に掲載した結果、2022年には欧米やアフリカ諸国から数千の書誌情報アクセス、数百の全文ダウンロードが記録されるなど、認知が広がっている。基盤となる研究活動を大切にしながら、セミナーやネットワーキングを進めていきたい。

2. 活動実績

2.1. 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の2022年度活動実績は、下記5. に示すとおりである。論文や研究報告はもとより、多数の研究代表プロジェクトを遂行するなど、活発な研究活動を行っている。

2.1.1. 学術ジャーナル刊行

センターの刊行物として、『ASC-TUFS Working Papers Vol.3 (2023)』を発行した。これは、2020年度より定期刊行物となったワーキングペーパーで、第3号の刊行となった。編集委員会は下記のとおりである。第3号は7本の論文を掲載している。

編集委員長：武内進一

編集委員：出町一恵、村津蘭、中山裕美、大石高典、坂井真紀子

事務局：柳田繭子

本ワーキングペーパーをJ-Stageに掲載したことで、世界各国からアクセス、ダウンロードがなされている。J-Stage側が提供する統計によれば、2022年1月～12月の1年間に、米国から約4,000件の書誌情報アクセスがあり、600件を超えるダウンロードがなされている。その他、主要なヨーロッパ、アフリカ諸国からも数多くのアクセス、ダウンロードが記録されている。

2.2. 教育活動

2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献

国際社会学部において特任研究員の村橋勲（2022年5月より静岡県立大学へ異動）と村津蘭が以下の授業を行った。

科目：アフリカ地域研究 2/B

題目：アフリカの宗教とエスニシティ 秋学期 15 コマ・前半は村橋勲がエスニシティを、後半は村津蘭が宗教を担当した。方式はオンラインと対面である。

2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所（IDE-JETRO）では、アジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この研修事業が「アイデアス」（IDEAS：IDE Advanced School）で、1990年以來の歴史がある。2018年度から、本センターが本学とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生をアイデアスに参加させ、大学院総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたアイデアス事業に、今年度は大学院生4名が参加した。

2.2.3. 大学の世界展開力強化事業（アフリカ）への協力

2020年度から始まった「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」に対して、センターとして次のようなイベントに協力した。

a. アフリカ留学説明会

6月7日、大学の世界展開力強化事業（アフリカ）、国際社会学部アフリカ地域専攻、現代アフリカ地域研究センターの共催で、東京外国語大学学生（学部生・大学院生）向けにアフリカ留学説明会を開催した。大学の世界展開力強化事業（アフリカ）のアフリカの協定校5校の紹介や安全対策、アフリカ留学で学べることなどを、アフリカ留学経験者や関係教員から説明した。

b. Feel Africa

6月7日～7月6日の1ヶ月間、大学の世界展開力強化事業（アフリカ）、国際社会学部アフリカ地域専攻、現代アフリカ地域研究センターの共催で、研究講義棟1Fガレリアにて、アフリカから本学に留学している学生のアート作品展示イベント“Feel Africa”を開催。グラフィックアート、絵本、写真など、17人の60点以上のオリジナル作品を展示した。展示期間中、出展者が会場に滞在する「コアタイム」を週2、3回、昼休みの時間に設定し、留学生の出身地域やアフリカへの理解・交流を深める機会を設けた。

加えて、6月13日の昼休みには、中央広場にてシエラレオネ出身の学生が作った絵本の読み聞かせイベント（Feel Africa 実行委員会、大学院総合国際学研究科 Peace and Conflict Studies コース共催）、7月4日の昼休みにはクロージング・イベント（作品解説会、音楽演奏）を開催した。いずれのイベントにも多数の留学生、本学学生が参加し、大きな盛り上がりを見せた。

c. Coil 型授業（ルワンダ）

昨年度に続いて、冬学期に武内が授業題目「アフリカの紛争と平和構築」を開講し、PIASS（ルワンダ）の佐々木和之先生と共同で授業を行った。オンラインで Zoom を利用し、ブレイクアウトルームを用いて 2 つの大学の学生を混ぜたグループを作り、議論をさせた。いわゆる Coil 型の授業であり、双方の学生から好評を得た。7 名の本学学生が参加した。

2.3. シンポジウム・セミナー

2.3.1. ガーナとの共同セミナー

3月6日、7日の2日間、ガーナ大学アフリカ研究所(Institute of African Studies, University of Ghana) と、“State and Rural Resource Management in Africa”のタイトルの下で共同セミナーを実施した。別添のプログラムに示す通り、報告者総数は41名に及び、7カ国の12大学・研究機関—具体的には、ガーナ（University of Ghana, University for Development Studies）、カメルーン（CIFOR、Université de Yaoundé I）、コンゴ民主共和国（Université de Kisangani）、ルワンダ（Protestant Institute of Arts and Social Sciences）、モザンビーク（Eduardo Mondlane University）、南アフリカ（University of Cape Town）、日本（東京外国語大学、日本貿易振興機構アジア経済研究所、東京農工大学、京都大学）—から参加があった。

セミナーの内容は、土地、木材、塩、鉱物など、農村部の資源管理と政治権力の関わりを比較研究するもので、ガーナ、ルワンダ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ザンビア、ジンバブウェ、モザンビークの事例が報告された。このテーマはアフリカの開発研究では中心的課題のひとつだが、アフリカ各国を相互に比較する機会はあまりないため、参加者から大きな刺激になったと高い評価を得た。アフリカ研究所の Ntewusu Samuel 所長も、冒頭の挨拶だけでなく、会議にも積極的に参加してくれた。共同セミナーの報告者一覧を下記に示す。

国名	氏名	肩書
ガーナ	Aidoo, Kojo	ガーナ大学 (IAS)
	Alhassan, Osman	ガーナ大学 (IAS)
	Amanor, Kojo	ガーナ大学 (IAS)
	Asante, Richard	ガーナ大学 (IAS)
	Narh, Peter	ガーナ大学 (IAS)
	Tontie, Kanton Lurimuah	ガーナ大学 (IAS)
	Torto, Obodai	ガーナ大学 (IAS)
	Yaro, Joseph Awetori	ガーナ大学 (IAS)
	Agbanyo, Agnes Doe A.	ガーナ大学 (IAS、博士課程)
	Akolgo, Joseph Octavius	ガーナ大学 (IAS、博士課程)

	Baddoo, Emmanuel Nii Adotei Eweh, Promise Idrisu, Azindow Tahiru, Latif Ablo, Austin Dziwornu Torvikey, Gertrude Dzifa Lamptey, Clement Yaw	ガーナ大学 (IAS、博士課程) ガーナ大学 (IAS、博士課程) ガーナ大学 (IAS、博士課程) ガーナ大学 (IAS、博士課程) ガーナ大学 (地理学科) ガーナ大学 (ISSER) 開発研究大学
カメルーン	Sonwa, Denis Jean Mvetumbo, Moïse Ngaunkam, Precilia Shokoleu epse Takem	CIFOR ヤウンデ第一大学 (博士課程) ヤウンデ第一大学 (博士課程)
コンゴ民主共和国	Ushindi Chishugi, David	キサングニ大学 (博士課程)
ルワンダ	Bikorimana, Gerard Sasaki, Kazuyuki Umuziranenge, Glorioso	PIASS PIASS PIASS
モザンビーク	Raimundo, Inês Bila, Cândida Macamo, Berta Joaquina	エト`ウアルト`・モント`ラネ大学 エト`ウアルト`・モント`ラネ大学 (博士課程) エト`ウアルト`・モント`ラネ大学 (博士課程)
南アフリカ	Chitonge, Horman Matose. Frank Nsama, Priscillah Sarfo, Kwasi	ケープタウン大学 ケープタウン大学 ケープタウン大学 (博士課程) ケープタウン大学 (博士課程)
日本	出町一恵 村津蘭 坂井真紀子 武内進一 劉瀟瀟 網中昭世 佐藤千鶴子 Abdulai, Adams Aziz Kpabitey, Sylvia	東京外国語大学 東京外国語大学 東京外国語大学 東京外国語大学 東京外国語大学 (博士課程) 日本貿易振興機構アジア経済研究所 日本貿易振興機構アジア経済研究所 東京農工大学 (博士課程) 東京農工大学 (博士課程)

注) 東京農工大学の学生は、本セミナーの資金源のひとつである科研費プロジェクト (国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B)「アフリカの農村資源管理と国家ーガーナとルワンダの比較研究」) の研究分担者である千年篤教授の紹介で参加した。千年教授は、共同サステナビリティ研究専攻の担当教員でもある。また、本学博士課程の参加者も共同サステナビリティ研究専攻に所属している。

2.3.2. ASC セミナー

ASC セミナーは、公式ウェブサイトや SNS に加えて当センターの開設したメーリングリスト（2.6.3 参照）を用いて広報している。2022 年度（令和 4 年度）は、下記 2.3.2. に示すとおり、11 回のセミナーを開催し、通算で 76 回の開催に至った。第 68 回と第 69 回は Zoom を用いたオンラインで、それ以外は対面とオンラインを併用したハイブリッドで開催した。第 69 回については、南アフリカ在住の研究者が報告したためにオンライン開催となった。オンライン開催は新型コロナウイルス感染症対策として導入されたものだが、新たなプラットフォームとして定着しつつある。今年度に関講した 11 回のうち、9 回は国際セミナーであった。別添に ASC セミナーのチラシを付す。

2.3.3. JSAS 年次総会への協力

日本に在住するアフリカ人留学生や若手アフリカ人研究者の研究交流支援については、昨年度から取り組みを開始した。今年度は、こうした研究者が中心になって組織された Japan Society for Afrasian Studies (JSAS) の年次学術集会開催を支援した。同集会は、7 月 9 日に “Africa and Asia at the Crossroads: Pandemic, Resilience, and Mobilities” をテーマとして、ハイブリッド形式で開催された。

2.3.4. その他、協力イベント

a. KU-TUFS セミナー

KU-TUFS セミナーは、本センターと京都大学アフリカ地域研究資料センター（CAAS）との共催で開催される企画である。今年度は、本センターの招へい者 1 名が 11 月に京都大学を訪問し、セミナーを実施した。また、CAAS 招へい者が 1 月に本センターでセミナーを開催した。詳細は以下のとおりである。

◆第 15 回 KU-TUFS セミナー

6 月 20 日 コジョ・オボク・エイドゥ氏（現代アフリカ地域研究センター客員教授／ガーナ大学アフリカ研究所・上級研究員）“W.E.B. Du Bois, George Padmore and Kwame Nkrumah: The Holy Trinity of Pan Africanism” ハイブリッド開催

◆第 16 回 KU-TUFS セミナー

11 月 22 日 ウスマヌ・アダマ氏（現代アフリカ地域研究センター客員准教授／マルア大学サヘルの環境・社会・政治変動研究センター・センター長・准教授）“Humanitarianism, Refugees, IDPs Narratives: Comparative Study of Cameroon, Chad and Nigeria” ハイブリ

ッド開催

◆第17回 KU-TUFS セミナー（第75回 ASC セミナー）

1月26日 タケレ・メリド 氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科／アディ
スアベバ大学エチオピア研究所）“Indigenous Knowledge of Forest Management among the
Gedeo of Southern Ethiopia” ハイブリッド開催

b. 「みんなで世界を旅しよう！2022 地球たんけんたい⑩」

京都で開催される小学生向けワークショップ。本学の大石高典准教授がトリップ2「アフリ
カの森の動物と精霊に会いに行こう！（カメルーンのバカ・ピグミー）」（10月30日開催）
で講師を務めた。本センターは共催団体として協力した。

c. 「トークイベント：アフリカと日本、2つの社会を生きること、描くことについて」

2月6日に開催されたNPO法人FENICS Salonのイベント。PIASSからの留学生 Paul Kani
Bahoya氏が登壇した。本センターは共催団体として協力した。

2.4. 人的交流

2.4.1. 研究者招へい

2022年度は3名の研究者をアフリカから招へいした。

a. コジョ・オポク・エイドゥ（Kojo Opoku Aidoo）

所属・役職：ガーナ大学アフリカ研究所・上級研究員

招へい期間：2022年3月25日～8月1日

講演活動：

5月11日 第66回 ASC セミナー

“Reflections on Academic, Political and Grassroots Genealogies of Pan
Africanism”

6月20日 第15回 KU-TUFS セミナー

“W.E.B. Du Bois, George Padmore and Kwame Nkrumah: The Holy Trinity of
Pan Africanism”

b. アダマ・ウスマヌ（Adama Ousmanou）

所属・役職：マルア大学サヘルの環境・社会・政治変動研究センター・センター長・准教授

招へい期間：2022年9月27日～2023年2月10日

講演活動：

11月22日 第16回 KU-TUFS セミナー

“Humanitarianism, Refugees, IDPs Narratives: Comparative Study of Cameroon, Chad and Nigeria”
11月28日 第71回ASCセミナー
“British and French Condominium: Dynamic of the Anglophone Crisis in the History of Cameroon”

c. フランク・アヒンビシブウェ (Frank Ahimbisibwe)

所属・役職：ンバララ科学技術大学学術研究学部都市計画・ガバナンス研究科・上級講師

招へい期間：2022年9月27日～2023年2月10日

講演活動：

2月3日 第76回ASCセミナー
“Refugees and the Dynamics of Peace Building in Africa”

2.4.2. 留学生招致活動

2020年度から世界展開力強化事業が開始されたことにより、留学生招致のための資金を工面する必要性はさしあたり低減した。とはいえ、事業が終了すれば、同じ問題が持ち上がる。世界展開力強化事業コーディネーター神代ちひろ助教の熱心な働きかけにより、アフリカから受入れる留学生も、日本からアフリカに派遣する本学学生も順調に増加し、今年度は受入6名（プレトリア大、ザンビア大、PIASS）、派遣4名（プレトリア大学、ザンビア大、PIASS）に達した。今後も、世界展開力強化事業と協力しつつ、学生交流の活性化に努めたい。

例年開催している留学生交流会は、11月10日に実施した。昨年度派遣予定だったPIASSからの留学生の来日がコロナ禍により遅れたため、2022年度のアフリカからの交換留学生は総勢8名に達した。交流会には、例年通りPIASSの佐々木和之先生も参加していただき、大いに盛り上がった。

留学生招致活動に関しては、クラウドファンディングの他に、企業からのご支援を活用している。ガーナからの留学生に対しては、トヨタガーナ社からの航空券支給を受けている（今年度は該当者なし）。また、矢崎総業株式会社からのご寄付を、留学生の生活費支援に充当した。

2.5. 社会貢献、ネットワーキング

日本におけるアフリカ研究のハブになることを目指す本センターの活動において、ネットワーキングはもともと重要な位置づけを占めている。一方、世界展開力強化事業、とりわけそのプラットフォーム事業との関係で、この活動をより意識的に行う必要が生じている。

2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN)

昨年度から日本・アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN) の議長校を務めている。JAAN はアフリカで活動を行う大学間ネットワークであるため、世界展開力強化事業のプラットフォーム事業と深い関連がある。世界展開力強化事業のパートナーである京都大学が、北海道大学とともに JAAN の副議長校であることもあって、JAAN の活動を世界展開力強化事業と組み合わせる形で展開するよう心がけている。2022 年度は、次に述べる SAJU フォーラム、そして 8 月に開催された TICAD 8 のサイドイベントとして京都大学が実施した「日本アフリカ大学教育交流の新地平ー日本・アフリカ大学教育交流ミーティング 2022」において、JAAN の紹介をする機会があった。

2.5.2. 第 5 回南アフリカ・日本大学フォーラム (SAJU フォーラム)

7 月 28 日、29 日に第 5 回 SAJU フォーラムがオンラインで開催された。本学は前回 (2019 年) に続いて、筑波大学とともに日本側の事務局を務めた。SAJU フォーラムは南アフリカと日本の大学間ネットワークの強化を目指す取り組みであるため、これも世界展開力強化事業のプラットフォーム事業との親和性が高い。このフォーラムでの出会いを継続、強化するための取り組みが必要になると考えている。

2.5.3. その他

11 月 3 日、ステレンボッシュ大学日本センター (SUJC) 主催のウェビナー“The Tokyo International Conference on African Development: Milestones and Prospects”に武内センター長がスピーカーとして参加した。SUJC は 2022 年 8 月に新たに創設された組織であり、2021 年度に本センターが招へいしたスカーレット・コーネリッセン教授がセンター長を務める。7 月の SAJU フォーラムにおいても、SUJC の紹介がなされていた。このウェビナーは、ネットワーキング活動と研究活動が結びついた例と言える。

国内での活動としては、立川市生涯学習推進センター・市民協働課が主催した多文化共生・国際理解講座への協力が挙げられる。12 月 22 日に武内センター長が、「ルワンダの奇跡 その光と影〜ジェノサイドの経験とその後〜」と題して講演した。

また、Feel Africa (2.2.3.参照) でのイベントからの派生事業として、11 月 22 日、府中市内の各小学校で読み聞かせを行う保護者のボランティア・グループに向けて、シエラレオネの絵本の読み聞かせ会を行った。これは、PCS の学生 Theresa Amui Akuye 氏が 2021 年に発表した絵本『Ansu's Village』を有志の日本人学生 4 名に翻訳してもらうところから始め、読み聞かせ会では Theresa 本人が母国や母国の口頭伝承文化などについて講演を行った。参加者からは時間をオーバーしても多くの質問が寄せられるなど反響は大きかった。

2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信

2.6.1. センター公式ウェブサイト

2017 年 7 月の公式ウェブサイトの設置以降、ホームページは着実に閲覧されてきた。今年度は英語版の閲覧者の利便性向上のため、日英切り替えをワンクリックで可能にする改修を実施した。また、オープンアクセスポリシーの付加や元センタースタッフのページを追加するなど、より充実した内容のための改修も行い、HP クリック時に旧ページに飛ぶなどの不具合にも逐次対応した。

記事の更新も頻繁に行い、今年度は 148 本の記事をアップしている（内訳は表 1）。今年度は、通算 121,053 のページビュー（閲覧されたページの合計数）があり、昨年度の同期間と比較して約 11%（約 12000 ビュー）増加している（2023 年 3 月 16 日現在）。なかでも、アフリカ関連情報の短信ページである「今日のアフリカ」、トップページ、スタッフ紹介ページの閲覧が多かった。

表 1. 公式ウェブサイト記事更新数内訳

2022 年 度	センターHP (全て記事公開日を基準にカウント)										
	お知らせ・イベント			研究活動				今日 の ア フ リ カ	留学生招致		
	お知 らせ	ASC セミ ナー	その他のイ ベント	研究 成果	研究プロ ジェクト	招へい 研究者	センター 刊行物		留学生 紹介	活動 記録	留学生招 致の取組
'22.4月	3			2		1		7	2	1	
5月	1	1		1				6			
6月			5	3				5		1	
7月	2	3	8					5			
8月	1							7		1	
9月	1	1	1					7	1	1	
10月	2			2		4		4	5	1	
11月	2	2	3			1		4			
12月	2	2	3					7			

'23.1月	3	3	1					5			
2月				1		3		8			
3月			2								
小計	17	12	23	9	0	9	0	65	8	5	0
合計 記事数	148										

* 3月の集計データは 2023年3月17日までのもの。

2.6.2. SNS (フェイスブック、ツイッター)

センターに関する最新情報については Facebook 及び Twitter といった SNS でも発信している。「今日のアフリカ」やセンターのセミナーやイベントなどを頻繁に発信することにより、各フォロワー数は 2023年3月17日時点で Facebook で 1096、Twitter で 1629 となり、昨年度同時期から Facebook で 175、Twitter で 320 程増加している。こうした地道な増加により、センターのイベントなどをより広く周知することが可能になっている。今年度の投稿記事数などは、表 2 に示すとおりである。

表 2 SNS 更新数内訳

2022年 度	Twitter				Facebook			
	記事投稿 数	新規 フォロワ ー	リツイート 獲得数	いいね! 獲得数	記事投稿 数	ページの リーチ	ページへの アクセス	ページへの 新規 いいね!
'22.4月	17	37	48	62	14	2379	778	4
5月	12	42	100	125	10	5355	106	17
6月	22	42	63	131	17	2264	97	15
7月	20	10	62	125	16	2803	101	9
8月	11	21	53	76	11	1279	44	1
9月	28	38	80	121	23	2726	180	11
10月	11	33	50	118	11	1718	208	2
11月	16	17	55	113	12	1967	139	6
12月	10	8	51	76	16	1110	138	6

'23.1月	11	8	43	94	13	3279	194	2
2月	8	52	74	195	8	757	135	2
3月	1	12	3	15	1	727	40	0
合計	166	320	679	1251	152	26364	2160	75

* 3月の集計データは 2023年3月17日までのもの。

* Twitter と Facebook は基本的に同記事を投稿しているが、Facebook はセミナーをイベントとして作成したり、両者のインサイトページのカウントの方法が違ったりすることにより記事投稿数に差異が出ている。

2.6.3. メーリングリスト

2023年3月15日現在、登録者数は853名である。また、2020年末に作成した外国人向けメーリングリストの登録者数は150名に達した。

3. センターの人員構成

センター長	武内進一
センター教員(兼担)	石川博樹、大石高典、坂井真紀子、椎野若菜、品川大輔、出町一恵、中川裕、中山俊秀、中山裕美、箕浦信勝
特任研究員	村津蘭
特別研究員	アルタンジョラー、Gore, David、林剛平、Kinyua, Laban Kithinji、大竹裕子、Emmanuel Vincent Nelson Kallon、大石晃史
事務局	柳田繭子

4. 活動記録

4.1. ASC セミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
66	5月11日(水)	コジョ・オボク・エイドゥ 氏(現代アフリカ地域研究センター・客員教授、ガーナ大学アフリカ研究所・上級研究員)	Reflections on Academic, Political and Grassroots Genealogies of Pan Africanism	日本アフリカ学会関東支部 2022 年度第 1 回例会を兼ねる。参加者 57 人(オンライン 45 人、対面 12 人)。ハイブリッド開催。
67	7月4日(月)	マッティアー・フマンティ 氏(京都大学・外国人招へい研究者<短期>、セント・アンドリュース大学社会人類学科・上級研究員)	Intimacy, Citizenship and Transnational Family Lives Between London and Ghana	日本アフリカ学会関東支部 2022 年度第 3 回例会を兼ねる。参加者 40 人(オンライン 29 人、対面 11 人)。ハイブリッド開催。
68	7月27日(水)	山口 亮太 氏(日本学術振興会・特別研究員 RPD/椋山女学園大学人間関係学部・研究員)	妖術と共にあること——カメルーンの農耕民バクウェレの民族誌	日本アフリカ学会関東支部 2022 年度第 4 回例会を兼ねる。参加者 46 人。オンライン開催。
69	9月23日(金)	エファ・プラー 氏(ステレンボッシュ大学社会学・社会人類学学科・講師)	The Weight of Inheritance: Legacies of Inequality in South Africa's Health System	日本アフリカ学会関東支部 2022 年度第 5 回例会を兼ねる。参加者 30 人。オンライン開催。
70	11月14日(月)	アフメド・バワ氏(東京大学東京カレッジ・招へい教員、ヨハネスブルグ大学ヨハネスブルグビジネススクール・教授)	Reimagining South African Universities in their Multiple Contexts	日本アフリカ学会関東支部 2022 年度第 7 回例会を兼ねる。参加者 33 人(オンライン 26 人、対面 7 人)。ハイブリッド開催。
71	11月28日(月)	アダマ・ウスマヌ 氏(東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・客員	British and French Condominium: Dynamic of the Anglophone Crisis in the	日本アフリカ学会関東支部 2022 年度第 11 回例会を兼ねる。参加者 62 人(オンライン

回	開催日	講師	題目	備考
		准教授／マルア大学サヘルの環境・社会・政治変動研究センター・センター長・准教授)	History of Cameroon	50人、対面12人)。ハイブリッド開催。
72	12月12日(月)	ジスレン・チケンドア・マタディ氏 (上智大学イエズス会海外客員教授 ／ドジュマ大学教授／聖ギー・ジュー マ教区司教代理)	Scientific Research and Development in Africa: An inspiration from Centre Teilhard de Chardin (DR Congo)	日本アフリカ学会関東支部 2022年度第13 回例会を兼ねる。参加者31人(オンライン 18人、対面13人)。ハイブリッド開催
73	12月19日(月)	トム・オンディチョ氏(東京外国語 大学アジア・アフリカ言語文化研究所 招聘研究者、ナイロビ大学人類学 准 教授)	Sexual health education and HIV/AIDS among campus students: Insights from Kenya	日本アフリカ学会関東支部 2022年度第14 回例会を兼ねる。参加者17人(オンライン 10人、対面7人)。ハイブリッド開催。
74	1月18日(水)	島田周平氏(名古屋外国語大学・教 授)	ナイジェリアの総選挙とディアスポラ	日本アフリカ学会関東支部 2022年度第15 回例会を兼ねる。参加者52人(オンライン 40人、対面12人)。ハイブリッド開催。
75	1月26日(木)	タケレ・メリド氏(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科／ア ディスアベバ大学エチオピア研究所)	Indigenous Knowledge of Forest Management among the Gedeo of Southern Ethiopia	日本アフリカ学会関東支部 2022年度第16 回例会、第17回KU-TUFSセミナーを兼 ねる。参加者39人(オンライン32人、対 面7人)。ハイブリッド開催
76	2月3日(金)	フランク・アヒンビシブウェ氏(現代 アフリカ地域研究センター・客員准 教授、ムバララ科学技術大学学術研究 学部都市計画・ガバナンス研究科・ 上級講師)	Refugees and the Dynamics of Peace Building in Africa	日本アフリカ学会関東支部2022年度例会を 兼ねる。参加者29人(オンライン18人、 対面11人)。ハイブリッド開催。

4.2.その他の主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	6月7日(火)～ 7月6日(水)	Feel Africa: Message Through Arts and Lens	大学の世界展開力強化事業(アフリカ)、国際社会学部アフリカ地域専攻
共同主催	6月20日(月)	第15回 KU-TUFS セミナー コジョ・オポク・エイドゥ氏 “W.E.B. Du Bois, George Padmore and Kwame Nkrumah: The Holy Trinity of Pan Africanism”	京都大学アフリカ地域研究資料センター
協力	10月30日(日)	みんなで世界を旅しよう! 2022 地球たんけんたい⑪	主催: マナラボ環境と平和の学びデザイン 京都府大学連携環境学習プログラム実施事業
共催	11月10日(木)	アフリカ留学生交流会 2022	大学の世界展開力強化事業(アフリカ)
共同主催	11月22日(火)	第16回 KU-TUFS セミナー ウスマヌ・アダマ氏 “Humanitarianism, Refugees, IDPs Narratives: Comparative Study of Cameroon, Chad and Nigeria”	京都大学アフリカ地域研究資料センター
後援	12月24日(土)	自主制作映画上映会『エミリーとブレーキー』	『エミリーとブレーキー』自主上映実行委員会、TUFS Cinema
協力	1月28日(土)～29日(日)	Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices (現代アフリカにおけるセクシュアリティ: 伝統、教育、そして実践)	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 TUFiSCo (ワールドサイエンスコモンズ)
共催	1月31日(火)	【Commons Café/FSC/ASC Seminar】 Stella Nyanzi, “Struggling against Homophobia in Uganda: An Academic-Activist-Ally’s Analysis”.	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
共催	2月1日(水)	【Commons café / ASC seminar】 Florence K. Muhanguzi, “Rethinking	東京外国語大学アジア・アフリカ

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
		Strategies for Ending Sexual Harassment in Higher Education in Institutions in Uganda”.	言語文化研究所
共催	2月6日(月)	FENICS サロン×ASC セミナー トークイベント：アフリカと日本、2つの社会を生きること、描くことについて	FENICS
共催	3月6日(月)～ 7日(火)	UG-TUFS 共同セミナー2023	ガーナ大学

4.3. 主要来訪者

日付	訪問者
4月11日(月)	Gahleeb Jeppie (駐日南アフリカ大使館公使)
4月21日(木)	堀内俊彦 (駐アフリカ連合日本国大使)
7月7日(木)	杉山弘樹 (在コートジボワール日本大使館参事官)
9月15日(木)	チャン・ジュンユ (駐日シンガポール共和国大使館一等書記官：Zoom ミーティング)
10月14日(金)	間瀬博幸 (外務省アフリカ第一課長)、野間美里 (同アフリカ第一課事務官)
12月12日(月)	Robert Kotse, Kirwan Adam, Sarah Richmond (ステレンボッシュ大学国際局)

5. センター教員・研究員の業績

5.1. 研究活動

5.1.1. 著作（単著・共著・編著）

- 小川芳樹, 中山俊秀 (2022) 『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論3』 開拓社.
- 村津蘭 (2023) 『ギニア湾の悪魔—キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌』 世界思想社.
- 藤田瑞穂、川瀬慈、村津蘭編 (2023) 『拡張するイメージ—人類学とアートの境界なき探究』 亜紀書房.

5.1.2. 論文

- Hiroki Ishikawa (2023) "Increase in Teff Consumption in Northern Ethiopia between the 16th and 18th Centuries and the Birth of Injera". *African Study Monographs. Supplementary Issue* 61: 7-40.
- Evariste Fedoung Fongnzossie, Marlène Tounkam Ngansop, Takanori Oishi, Achille Bernard Biwole, Elvire Hortense Biye, Mitsuo Ichikawa (2023) "Traditional knowledge of plants used in hunting and fishing practices among Baka hunter-gatherers of eastern Cameroon". *Journal of Ethnobiology and Ethnomedicine*, 19(1) Online <https://doi.org/10.1186/s13002-022-00571-3>
- 大石高典 (2021) "Bees as mediators: From human-bee relations to the anthropology of pollination". *Japanese Review of Cultural Anthropology*, 22(2): 47-53.
- Moïse Mvetumbo, Mbonji Edjenguèlè, Paschal Kum Awah, Denis Jean Sonwa and Takanori Oishi (2023) "Perception and Management of Diseases and Therapeutic Resources among Ewondo Population (Central Region of Cameroon): A Case of Malaria and Spleen Disease" *ASC-TUFS Working Papers*, 3: 121-138.
- ンソンカリ・チャールズ＝ジョーンズ、大石高典 (2023) 「ンソンカリ・チャールズ＝ジョーンズ氏半生記訳注」『東京外国語大学論集』 105, 35pp.
- 高橋康介、島田将喜、錢琨、大石高典、田暁潔 (2022) 「挨拶から紐解くコミュニケーションの距離感」山口真美、河野哲也、床呂郁哉 (編) 『コロナ時代の身体コミュニケーション』 勁草書房、175–206.
- 坂井真紀子 (2022) 「東アフリカの長距離交易と地域経済の変容」アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」への視角(課題番号 18H00776)―研究成果中間報告書― 『「現金の社会化」から「在来の技術革新史」へ』 27-40.

- 椎野若菜 (2022) 「東アフリカにおける月経観とセクシュアリティ—ケニアとウガンダの事例から」 杉田映理・新本万里子編『月経の人類学—女子生徒の「生理」と開発支援』世界思想社、170-189.
- 品川大輔 (2022) "'Pig' in Bantu", *Studies in geolinguistics* (2): 122-125
- 武内進一 (2022) 「アフリカの平和に向けた日本の政策と実践」『国際問題』707: 5-14.
- 武内進一 (2022) 「中部アフリカーポストコロニアル国家の生成史」永原陽子 (責任編集)『岩波講座世界歴史 18 アフリカ諸地域 ~20世紀』岩波書店 175-197.
- 武内進一 (2022) 「アフリカビジネスのフロンティア性」『海外投融資』31(4): 3-6.
- 武内進一 (2022) 「アフリカ諸国はロシアに忖度しているのか—非同盟運動と合理的な『あいまい戦略』」『外交』75 (Sep./Oct. 2022) 56-61.
- 武内進一 (2022) “Pinning the TICAD along the idealism and realism axis.” *East Asia Forum*.
- 武内進一 (2022) “International Relations and African Studies in Japan: Focus on Historical and Institutional Factors” (IR studies in Japan) 日本国際政治学会ウェブサイト
- 出町一恵 (2023) "African trade ties and networks," *ASC-TUFS Working Papers*. 2023: 51-71.
- 中川裕 (2023) "Towards a phonological typology of the Kalahari Basin Area languages", *Linguistic Typology*.
- 小川芳樹, 中山俊秀 (2022) 「変化・変異・進化の事実に向き合う種々の言語理論 — 必要なのは対立か, 対話か, 連携か —」小川芳樹, 中山俊秀編『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論3』開拓社、1-28.
- 中山俊秀 (2022) 「言語の多様性が教えてくれること：言語システムの動的性質と文脈依存の性質」日本音響学会第148回研究発表会論文集.
- 村津蘭 (2022) "The Transformation of Togetherness with Spirits: Deliverance and Witch Possession in a Pentecostal-Charismatic Churches in Benin" *Japanese Review of Cultural Anthropology* 23(1): 95-129.
- Emmanuel Vincent Nelson Kallon (2022) "Corowekstake." In Bangura, A.K. (ed.) *Multidisciplinary Explorations of Corohysteria Caused by the COVID-2019 Pandemic*. Lexington Books, 405-430.
- 大石晃史 K. Oishi, H. Ito, Y. Murase, H. Takikawa, and T. Sakamoto (2022) “Evolution of global development cooperation: An analysis of aid flows with hierarchical stochastic blockmodels.” *PLoS ONE* 17, e0272440
- 大石晃史 H. Hosoi, H. Ito, and K. Oishi (2022) "State of the Civil War in the Phantom State: Integration and Fragmentation among Armed Groups in the Central African Republic Since 2005." *SSRN*.

5.1.3. エッセイ、その他

- 石川博樹 (2022)「一皿の料理が問いかけるもの：アフリカの主食作物と歴史研究」, 永原陽子責任編集『岩波講座世界歴史 18 アフリカ諸地域 ～20 世紀』岩波書店, 221-222.
- 石川博樹 (2022)「日本ナイル・エチオピア学会第 31 回学術大会最優秀発表賞受賞者エッセイ：16～19 世紀エチオピア北部における副食」『日本ナイル・エチオピア学会ニューズレター』30(1): 3-4.
- 大石高典 (2022)「旅嫌いの旅行記」の終わらない旅」『piera 【ピエリア】』14: 4-5. 東京外国語大学出版会.
- 大石高典 (2022)「(書評・紹介)『人を知る法、待つことを知る正義——東アフリカ農村からの法人類学』石田慎一郎著」『おすすめアフリカ本』、特定非営利活動法人アフリック・アフリカ.
- 大石高典 (2022)「書評：児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房、2021 年」『立命館アジア・日本研究学術年報』3: 230-233.
- 大石高典 (2022)「普遍性と多様性の歴史 (書評：エラ・アル＝シャマヒー著、大川修二訳『人はなぜ握手をするのか』草思社、2022 年)」京都新聞、北國新聞、山陰中央新報ほか (共同通信社配信).
- 大石高典 (2022)「(書評・紹介)『アフリカ日和』早川千晶＝著」『おすすめアフリカ本』、特定非営利活動法人アフリック・アフリカ.
- 大石高典 (2022)「書評：坂巻哲也著『隣のボノボー集団どうしが出会うとき』京都大学学術出版会、2021 年、292 頁、¥2,200 + 税」『アフリカ研究』102: 37-40.
- 大石高典 (2022)「(書評・紹介)『コーヒーを飲んで学校を建てよう——キリマンジャロ・フェアトレードの村をたずねる』文・絵＝ふしはら のじこ／監修＝辻村英之」『おすすめアフリカ本』、特定非営利活動法人アフリック・アフリカ.
- 大石高典「河童のアフリカ研究」(毎月連載)俳句雑誌『氷室』氷室俳句会.
- 椎野若菜 (2022)「ハウスガールの人生を想う」『フィールド+』28: 14-15.
- 椎野若菜 (2022)「街の看板からジェンダーを読み解くフィールドワーク」『地理』5月号 50-58.
- 椎野若菜 (2022)「コラム：『現場で育む フィールドワーク教育』のススメ」『地理』5月号 59-60.
- 武内進一 (2022)「ルポルタージュを読む愉しみ」『piera ピエリア』14: 14-15.
- 武内進一 (2022)「BLMから学ぶ『無知の知』」『piera ピエリア』14: 62.
- 武内進一 (2022)「モブツ—冷戦の創造物」遠藤貢・阪本拓人編『ようこそアフリカ世界へ』昭和堂 102.
- 武内進一 (2022)「アフリカ開発会議の焦点」『日本経済新聞』2022 年 8 月 17 日(経済教室).
- 中山裕美 (2022)「上野友也『膨張する安全保障——冷戦終結後の国連安全保障理事会と人道的統治』明石書店、2021 年」日本政治学会編『年報政治学 2022-I 号』430-433.

村津蘭 (2022) 『『優しい地獄』 イリナ・グリゴレ著 亜紀書房』 2022年9月共同通信社配信.

林剛平 (2022) 「システム論の地域学への応用」『蟻鱒鳶ル売り鱒』創刊準備号 2-38.

林剛平 (2022) 「創作における身体性」『蟻鱒鳶ル売り鱒』創刊号 20-47.

林剛平 (2023) 「モノ造りの現場へのオートポイエーシスの応用」『蟻鱒鳶ル売り鱒』2号 20-35.

5.1.4. 学会・シンポジウム

石川博樹「16～19世紀エチオピア北部における副食」日本ナイル・エチオピア学会第31回学術大会（日本貿易振興会アジア経済研究所／オンライン）. (2022年4月17日)

石川博樹「イタリアの人種論における『ハム人種』」日本アフリカ学会第59回学術大会（長崎大学／オンライン）. (2022年5月22日)

石川博樹「エチオピアの栽培植物に関する歴史研究を通して見た学際的共同研究の可能性」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術フォーラム（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所／オンライン）. (2022年6月25日)

石川博樹「アフリカ食文化史研究の試み：エチオピア北部を事例として」アフリカ史研究会第2回会合（京都大学／オンライン）. (2022年9月3日)

大石高典 "Teaching Japanese children the play and culture in Cameroon". 10th Federation of Africa University Sports (FASU) Games Pre-Games International Symposium. (2022年6月2日～2022年6月3日. Kenyatta University/ Online)

大石高典「シンポジウム『日本鶏再考：日本の鶏の成り立ちと文化』へのコメント」生き物文化誌学会 第84回例会（日本鶏例会）、東京大学総合博物館（2022年9月24日／オンライン）

坂井真紀子 "Periodic Market Networks as a hub for local resource management: A case study of West Cameroon", University of Ghana - Tokyo University of Foreign Studies Joint Seminar of State and Rural Resource Management in Africa. Institute of African Studies, University of Ghana. (7 March 2023)

椎野若菜 "Distorted Sexual Knowledge – A case of Kenyan Primary School Students from MHM Survey" MHM Workshop "Diversifying Menstrual Hygiene Management Education in Uganda" (2 September 2022)

椎野若菜「女性史家もろさわようこの築いた『歴史を拓くはじめの家』のこれから」FENICS 共催イベント(2022年9月10日)

椎野若菜 "Transmission of sexual knowledge – tradition and intergenerational disconnection in rural Kenya". (28 January 2023). TUFiSCo-ILCAA International Symposium. "Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices" (現代アフリカ

におけるセクシュアリティ：伝統、教育、そして実践)

- 品川大輔 "Postnasal trilling in Bantu cross-linguistic variation and typology overview", 9th International Conference on Bantu Languages. (2022年6月7日)
- 品川大輔 "System of 'Sibling' terms in Bantu" ILCAA Joint Research Project Studies in Asian and African Geolinguistics, the fifth meeting. (2022年7月23日)
- 品川大輔 "Reorganization of classes 3, 11, and 14 in Bantu: insights from under-described varieties", 52nd Colloquium on African Languages and Linguistics. (2022年8月30日)
- 品川大輔 "Internal variation of negation systems and historical branching of Kilimanjaro Bantu languages", International BantUGent-ILCAA Joint Research Workshop: The Past and Present of Bantu Languages: Integrating Micro-Typology, Historical-Comparative Linguistics and Lexicography. JSPS-FWO Bilateral Project "The Past and Present of Bantu Languages: Integrating Micro-Typology, Historical-Comparative Linguistics and Lexicography". (2022年9月1日)
- 品川大輔 「バントゥ諸語マイクロ類型論と Bantu morphosyntactic variation database」 第18回 CODH セミナー「マイクロ類型論とデジタルアーカイブ構築：バントゥ諸語と日琉諸語の事例から」。 (2023年1月22日)
- 武内進一 “International Relations and African Studies in Japan: With special focus on historical and institutional factors” International Studies Association 2022. TVB15 “International relations studies from the perspective of history and area studies: a Japanese approach”. (29 March 2022)
- 武内進一 “TICAD and Japan’s Peace Policy towards Africa” Japan Society for Afrasian Studies, annual conference 2022 (9 July 2022)
- 武内進一 “TICAD between Idealism and Realism” webinar organized by Stellenbosch University Japan Centre (SUJC) in association with the Embassy of Japan in Pretoria: The Tokyo International Conference on African Development: Milestones and Prospects. (3 November 2022)
- 武内進一 「アフリカ諸国の曖昧な態度の背景にあるもの」日本学術会議地域研究委員会『学術フォーラム 地球規模のリスクに立ち向かう地域研究 ウクライナ危機に多角的に迫る』(2022年12月10日)
- 武内進一 “African states, rural resource management, and development: Implications of Rwanda’s developmentalism” University of Ghana – Tokyo University of Foreign Studies Joint Seminar on State and Rural Resource Management in Africa. Institute of African Studies, University of Ghana. (7 March 2023)
- 出町一恵 "African trade ties and networks," University of Ghana – Tokyo University of Foreign Studies Joint Seminar on State and Rural Resource Management in Africa.

Institute of African Studies, University of Ghana. (7 March 2023)

中川裕 “A phonesthemic vowel feature in G|ui”, KBA Riezlern 2022, Riezlern, Austria. (July 19, 2022)

中川裕 「コイサン諸語のクリック子音の音韻分析：SPE と単一音素分析の系譜」, 日本英語学会第 40 回大会. (2022 年 11 月 5～6 日 オンライン)

中川裕 "Typological features of Consonants in Khoisan languages of the Kalahari Basin Area", Francqui International Professorship Symposium. (December 9, 2022)

中山俊秀 「文法体系の拡張：逸脱構文の発達事例から考える」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2022 年度第 2 回研究会.

村津蘭 「SNS と呪術、治療—ベナンにおける事例より」, 日本アフリカ学会第 59 回学術大会. (2022 年 5 月 21 日 オンライン)

アルタンジョラー「ブォの儀礼と伝承」, 天理大学おやさと研究所研究報告会. 天理大学 (2022 年 3 月 14 日 / オンライン)

5.1.5. 一般向け講演

大石高典 「トリップ 2 アフリカの森の動物と精霊に会いに行こう！」『オンラインで世界を旅しよう！2022 地球たんけんたい⑩』マナラボ 環境と平和の学びデザイン (京都府京都市) (2022 年 10 月 30 日)

品川大輔 「アフリカをフィールド言語学する—行っってはじめてわかったこと—」DDDLing 「フィールド言語学カフェ」2022 年 11 月 20 日

武内進一 「『アフリカの貧困』について考える」東京外国語大学オープンキャンパス. (2022 年 7 月 24 日)

武内進一 「ルワンダの奇跡 その光と影～ジェノサイドの経験とその後～」(立川市多文化共生・国際理解講座。主催：立川市生涯学習推進センター・市民協働課。共催：特定非営利活動法人時事英語—アフリカと日本の絆。於立川市柴崎学習館) (2022 年 12 月 22 日)

椎野若菜 「どのようにフィールドワークをデザインすればよいのか？」高 2 向け T-project 桐朋学園

椎野若菜 「父系社会における女性の境遇—インド、アフリカ、そして日本」(ハイブリッド) 「父系社会に生きる女たち—アフリカと日本の伝統社会と現代」FENICS×志縁の苑×ジェンダー・セクシュアリティ人類学研究会 共催サロン (2022 年 10 月 9 日)

椎野若菜 「子持ちフィールドワーカー～仕事も暮らしも豊かに～」調布東部市民講座. (2023 年 2 月 4 日)

坂井真紀子 「アフリカ、フランス、日本～交差する視点」オンライン講演会 (パネラー)、

パリ日仏会館. (2022年9月24日 オンライン)

村津蘭「西アフリカ・ベナンの宗教と治療」2022年度第1回 L'amicale de la Santé en Afrique Francophone (LAF会) 定例会. (2022年7月14日 オンライン)

大竹裕子「暴力紛争後の癒しと平和への道すじ」佐々木和之さんを支援する会 (Youtubeチャンネルにて、佐々木和之さんとオンラインライブ対談) (2023年2月3日)

5.1.6. 企画・運営・事務局等

椎野若菜 共催イベント 「大学院生でママ・パパになれる？研究室仲間と歩んだ子育て院生生活」特定非営利活動法人 FENICS (Fieldworker's Experimental Network for Interdisciplinary CommunicationS)×日本アフリカ学会九州支部 (2022年5月21日)

椎野若菜 第56回日本文化人類学会研究大会 前夜祭次世代支援 WG2021+人類学若手交流会 共催イベント「フィールドに行けない人類学：院生3分リレートーク」(2022年6月3日)

椎野若菜 「南極教室」桐朋学園×むさしの学園×FENICS (2022年7月16日)

椎野若菜 「女性史家 もろさわようこの築いた『歴史を拓くはじめの家』を知る」FENICS×志縁の苑×ジェンダー人類学研究会 (2022年9月10日)

椎野若菜 「新型コロナウイルス禍による家族研究の困難と可能性」比較家族史学会 秋季大会シンポジウム (2022年9月8日)

椎野若菜 【TUFiSCo-ILCAA International Symposium】"Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices" (現代アフリカにおけるセクシュアリティ：伝統、教育、そして実践) (2023年1月28-29日)

椎野若菜 【Commons Café /FSC/ASC Seminar】 Dr. Stella Nyanzi, "Struggling against Homophobia in Uganda: An Academic-Activist-Ally's Analysis". (2023年1月31日)

椎野若菜 【Commons café / ASC seminar】 Dr. Florence K. Muhanguzi, "Rethinking Strategies for Ending Sexual Harassment in Higher Education in Institutions in Uganda". (2023年2月1日)

椎野若菜 FENICS×ASC セミナー「アフリカと日本、2つの社会を生きること、描くことについて」(2023年2月6日)

中山裕美 グローバル・ガバナンス学会10周年記念企画国際シンポジウム／国際関係研究所シンポジウム～ウクライナ情勢を背景とする国際秩序の変容～"Ukraine War and the Restructuring of Regional Order" (2022年11月12日)

中山裕美 国際関係研究所シンポジウム／グローバル・ガバナンス学会定例研究会～ウクライナ情勢を背景とする国際秩序の変容～「ウクライナ戦争から米・中・露関係の過去と現在を考える」(2022年12月10日)

中山裕美 国際関係研究所研究会 連続研究会『ウクライナ情勢を背景とする国際秩序の

変容』「ウクライナ難民と EU ー難民受入の制度と政治」(2022 年 7 月 25 日)

5.2. 教育活動

5.2.1. 本学内における今年度担当授業

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
石川博樹	国際社会学部	アフリカ地域研究 I	世界史のなかのエチオピア	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールド地域研究 1	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールド地域研究 2/	アフリカ歴史文化論	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールド地域研究 1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールド地域研究 2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールドワーク 1	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールドワーク 2	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	秋
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語(英語II-1)	アフリカ研究のための英語 1	春
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語(英語II-6)	アフリカ地域研究のための英語 2	秋
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎 2	アフリカ地域研究入門 2	春
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域研究 3	アフリカから「地域研究」を展望する	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 1	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 1	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 2	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 2	秋
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 3	フィールド人類学・地域研究II	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 4	フィールド人類学・地域研究II	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 1	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 1	春
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 2	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 2	秋
大石高典	国際社会学部	卒業研究	プロセスとしての卒業論文	通年
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	生態人類学の理論と方法I	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	生態人類学の理論と方法II	秋
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文ゼミ (生態人類学講究) 1	春
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文ゼミ (生態人類学講究) 2	秋
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1	生態人類学講究 1	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 2	生態人類学講究 2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	専攻言語(英語I-9)	英語で学ぶアフリカ II (E)	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語(フランス語)	フランス語で見るアフリカ II	春

教員名	学部/研究科	科目	題目	学期
		B3)		
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語(フランス語 B4)	フランス語で見るアフリカ II	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎 1	アフリカ地域研究入門 1	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 1	アフリカ農村社会学	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 2	アフリカと開発	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 1	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 2	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 1	卒業論文演習 I	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 2	卒業論文演習 II	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業研究		通年
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オ セアニア地域研究 17	仏語圏アフリカ地域研究 I	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オ セアニア地域研究 18	仏語圏アフリカ地域研究 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼ ミ 1	アフリカ地域研究ゼミ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼ ミ 2	アフリカ地域研究ゼミ(2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オ セアニア地域研究 1	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オ セアニア地域研究 2	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールド人類学 1	African Anthropology(1) : Focusing on Women's condition in East Africa	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールド人類学 2	African Anthropology (2): Focusing on Women and Youth in Africa	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールド地域研究 1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールド地域研究 2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語(スワヒリ語 1)	スワヒリ語中級 1	春
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語(スワヒリ語 2)	スワヒリ語中級 2	秋
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼ ミ 2	修士研究：記述言語学	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールド言語学 1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールド言語学 2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールドワーク 1	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィ ールドワーク 2	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	秋
武内進一	国際社会学部	国際政治概論 1	国際協力の史的展開	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習 1	国際社会の思想と行動 A	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習 1	国際社会の思想と行動 B	秋
武内進一	国際社会学部	国際協力論 2	アフリカの紛争と平和構築	冬

教員名	学部/研究科	科目	題目	学期
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習 1	卒業論文演習 I (国際協力論)	春
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習 2	卒業論文演習 II (国際協力論)	秋
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	現代アフリカ政治	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	国際関係論における開発	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 1	IDEAS 国際開発論講義(1)	春
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 2	IDEAS 国際開発論講義(2)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 3	IDEAS 国際開発論講義(3)	春
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 4	IDEAS 国際開発論講義(4)	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文指導	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎 A	Foundations of Sustainability Research A	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎 B	Foundations of Sustainability Research B	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar I	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar I	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Interdisciplinary Seminar III	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Interdisciplinary Seminar III	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 I	Sustainability Research Advanced Practicum I	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 I	Sustainability Research Advanced Practicum I	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 II	Sustainability Research Advanced Practicum II	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 II	Sustainability Research Advanced Practicum II	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 III	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 III	Sustainability Research Advanced Practicum III	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 IV	Sustainability Research Advanced Practicum IV	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 IV	Sustainability Research Advanced Practicum IV	秋
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語 (英語II-5)	世界経済グローバル化の歴史	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語（英語II-5）	世界経済グローバル化の歴史	秋
出町一恵	世界教養プログラム	AI・データサイエンス1	TUFSの学びとデータサイエンス（DS102: リレー講義）	春
出町一恵	世界教養プログラム	AI・データサイエンス1	分析道具としてのデータサイエンス入門（DS202, リレー講義）	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学1	国際経済学I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学2	国際経済学II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論2	国際金融	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習1	国際経済論（専門演習）I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習2	国際経済論（専門演習）II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習1	国際経済論（卒業論文）I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習2	国際経済論（卒業論文）	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業研究	国際経済論（卒業論文）	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究3	Research Seminar on International Economics	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究4	Research Seminar on International Economics	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar I	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎A	Foundations of Sustainability Research A	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎B	Foundations of Sustainability Research B	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Sustainability Research Advanced Practicum III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	Sustainability Research Advanced Practicum I	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習I	Sustainability Research Advanced Practicum I	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論1	音韻分析基礎	春
中川裕	言語文化学部	音声学概論2	音韻論概説：音素・素性	秋
中川裕	言語文化学部	音声学演習1	音声学演習1	春
中川裕	言語文化学部	音声学演習2	音韻論演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習1	音声学・音韻論卒業論文演習	春
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習2	音声学卒業論文演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業研究		通年
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究1	音声学再入門	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究2	音韻論再入門	秋
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	修論執筆	春
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ	修士論文：音声学・音韻論	秋

教員名	学部/研究科	科目	題目	学期
		ミ2		
中川裕	総合国際学研究科	音声学1	音声学・音韻論セミナー1	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学2	音声学・音韻論セミナー2	秋
中山俊秀	世界教養プログラム	多文化社会1	Language revitalization and community engagement	冬集中
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールド言語学1	言語使用を基盤として文法を考える：理論と方法	春
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカワールド言語学2	言語使用における文法の研究：文法の多重性	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治概論2	国際政治理論	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論1	グローバルガバナンス論と難民・移民問題	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論2	地域主義比較分析	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習1	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習2	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習1	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習2	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業研究	国際協調	通年
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究2	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論2	国際協調	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語1	マダガスカル語	春
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語2	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論3	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論4	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学3	形態論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学4	統語論入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習5	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習6	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究演習1	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習2	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究	言語学卒業論文	通年
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	言語学修論演習	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	言語学修論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学1	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学2	言語記述研究	秋
村津蘭・村橋 勲	国際社会学部	アフリカ地域研究2	アフリカの宗教とエスニシティ	秋
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語（英語II-2）	African Society and Politics 1	春
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語（英語II-7）	African Society and Politics 2	秋

5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	開講時期
石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	春・秋
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史Ⅱ 現代社会のなかのアフリカ史	秋
石川博樹	放送大学	東京渋谷学習センター	移動と交流から見るアフリカ史3	第1学期
出町一恵	上智大学	社会人向け講座	アフリカのいまを知る	2022年10月28日
中山俊秀	明治大学	文学部	言語学	春・秋
大石高典	亜細亜大学	国際関係学部	アフリカ開発論	春
品川大輔	明治学院大学		スワヒリ語初級	春・秋
品川大輔	明治学院大学		スワヒリ語中級	春・秋
武内進一	学習院女子大学	国際文化交流学部	ルワンダのジェノサイドとそれから	2022年11月22日
村津蘭	大妻女子大学	人間関係学部	世界の歴史と文化	春
村津蘭	大東文化大学	外国語学部	アフリカ地域研究 A	春
村津蘭	大東文化大学	外国語学部	アフリカ地域研究 B	秋
村津蘭	京都市立芸術大学	美術学部	映像論 2	春
大石晃史	埼玉大学	工学部	社会的意思決定論	後期
大石晃史	青山学院大学	国際政治経済学部	国際政治理論Ⅱ	後期
大石晃史	青山学院大学	国際政治経済研究科	国際政治の計量分析	後期
アルタンジョ ラー	金沢星稜大学	人文学部国際文化学科	Folk Religions	春

5.2.3. 修士・博士論文指導

a. 修士論文（東京外国語大学）

指導教員	論文タイトル	論文執筆者
大石高典	京都市動物園におけるゾウ個体群の社会関係－飼育員とゾウの相互行為分析に向けての試論	築地夏海
大石高典	（副査）モソ人母系社会における婚姻に関する人類学的考察:漢化論とフェミニスト民族誌の再考	PAN JINYU
大石高典	（副査）バントゥ諸語の同定・分類・系統 — 学説史の検討—	Jeong Kyoung-Won
大石高典	（副査）アフリカにおける中国企業の労使紛争原因の再検討—ザンビアのケーススタディー—	趙炎
坂井真紀子	（副査）中国・エチオピア関係深化の要因分析—開発政策に焦点を当てて	神田亜美
坂井真紀子	（副査）和平合意を通じた紛争終結の条件—各紛争勢力の組織変化からみるシエラレオネ紛争の終結	松原優華
品川大輔	バントゥ諸語の同定・分類・系統 — 学説史の検討—	Jeong Kyoung-Won
武内進一	中国・エチオピア関係深化の要因分析—開発政策に焦点を当てて	神田亜美
武内進一	アフリカにおける中国企業の労使紛争原因の再検討—ザンビアのケーススタディ	趙炎
武内進一	アフリカ資源国に対する中国の経済協力—対ナイジェリアのインフラによる資源獲得アプローチの転換をめぐって	侍韻
武内進一	（副査）和平合意を通じた紛争終結の条件—各紛争勢力の組織変化からみるシエラレオネ紛争の終結	松原優華
出町一恵	（副査）アフリカ資源国に対する中国の経済協力—対ナイジェリアのインフラによる資源獲得アプローチの転換をめぐって	侍韻
中川裕	日本語の音韻性錯語の新たな分類	宮崎哲雄
中川裕	（副査）バントゥ諸語の同定・分類・系統 — 学説史の検討—	Jeong Kyoung-Won
中山裕美	（副査）中国・エチオピア関係深化の要因分析—開発政策に焦点を当てて	神田亜美

b. 博士論文

指導教員	主/副	論文タイトル	執筆者	提出大学
武内進一	副	“Japanese Coal Transition Reexamined: The Remains of Coal”	小島舞	東京外国語大学
武内進一	副	「賠償をめぐる対話—ルワンダの農村社会におけるガチャチャ裁判後の関係構築—」	片山夏紀	東京大学
武内進一	副	”Institutional Transformation of Traditional Authorities: The Bunyoro Kitara Kingdom and Museveni’s Regime”	大平和希子	東京大学
武内進一	主	“Iraq’s Food Security: A Study on Its Food Production System and the Impact of the United Nations Resolutions”	Teeba M. Mohammed	東京外国語大学
武内進一	副	“The Politics of Resource Governance in a Neoliberal Age: An Exposition of the Operations of Multinational Corporations and their Impact on Natural Resource Governance in Sub-Saharan Africa. A Case Study of Post-	Wusu Conteh	東京外国語大学

出町一恵	副	War Sierra Leone” “The Politics of Resource Governance in a Neoliberal Age: An Exposition of the Operations of Multinational Corporations and their Impact on Natural Resource Governance in Sub-Saharan Africa. A Case Study of Post-War Sierra Leone”	Wusu Conteh	東京外国語大学
------	---	--	-------------	---------

5.3. 対外活動、社会貢献

5.3.1. 外部機関からの委託業務

研究者名	組織・機関	業務	期間	備考
大石高典	日本アフリカ学会	評議員	2021.4.1～2022.3.31	学会運営
大石高典	日本アフリカ学会	関東支部運営幹事	2021.4.1～2022.3.31	学会の地域支部運営
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2021.4.1～2022.3.31	日本アフリカ学会との連携業務
大石高典	生き物文化誌学会	評議員	2021.4.1～2022.3.31	学会運営
大石高典	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2022.4.1～2025.3.31.	「身体性の人類学(ものの人類的研究(4))」への参加
椎野若菜	アフリカ学会	評議員	2022.4.1～2024.3.31	
椎野若菜	文化人類学会	男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会評議員	2020.4.1～2022.3.31	男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員
椎野若菜	比較家族史学会	理事、編集委員	2011～	編集員
椎野若菜	ナイル＝エチオピア学会	評議員	2010～	
椎野若菜	民族学博物館	共同研究員	2020.10～	
椎野若菜	マケレレ大学	外部審査委員	2020.7～	
椎野若菜	人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences (GEAHSS 略称ギース)	副委員長	2022.10.1～2023.9.30	第6期役員構成・幹事学協会
品川大輔	日本言語学会	大会運営委員	2020.1～2022.11	日本言語学会学術大会の運営
品川大輔	日本アフリカ学会	編集委員	2020.4.1～2022.3.31	学会誌『アフリカ研究』の編集
武内進一	国立民族学博物館	共同研究員	2022.4.1～2023.3.31	「統治のフロンティア空間をめぐる人類学——国家・資本・

研究者名	組織・機関	業務	期間	備考
				住民の関係を考察する」
武内進一	日本アフリカ学会	副会長	2022.4.1～2024.3.31	
中川裕	日本音声学会	評議員	2022.4.1～2025.3.31	
中川裕	日本言語学会	評議員	2021.4.1～2024.3.31	
中川裕	日本言語学会	編集員	2021.4.1～2024.3.31	
中山裕美	文部科学省	学術調査官	2021.8.1～2023.7.31	科学研究費事業に関する諸業務
中山裕美	グローバル・ガバナンス学会	理事（国際交流担当）	2022～2024	学会の国際交流企画の担当
中山裕美	日本国際政治学会	倫理委員	2022～2024	
アルタンジョラー	国立民族学博物館	外来研究員	2022.10.1～2023.9.30	モンゴル人社会の宗教的実践に関する調査協力
アルタンジョラー	NPO 東京自由大学	理事	2022.4.1～2024.3.31	運営活動

5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
大石高典	テレビ	日本放送協会「NHK NEWS WEB」	「議論が怖いので多数決じゃダメですか？投票とくじ引き民主主義」に関する取材・コメント	2022年7月7日放送
大石高典	テレビ	フジテレビ「ポップUP！」	「対立嫌い!? 議論することも避けたがる若者をどう思う？」に関する取材・コメント	2022年11月14日放送
大石高典	ラジオ	ラジオフューズ 87.4MHz	「ラジオでオープンキャンパス!: アフリカ地域専攻 × Femme Café Part 3」への企画協力・助言・出演	2022年7月23日放送
武内進一	テレビ	日経モーニングプラス FT BS テレビ東京	「アフリカ市場開拓へ IT分野を狙え」出演	2022年8月23日
武内進一	ラジオ	荻上チキ・Session	「TICAD 8」出演	2022年8月29日
武内進一	その他	Voice of America	“Japan Reengaging with Africa in face of rising China” 取材協力	https://www.voanews.com/a/japan-reengaging-with-africa-in-face-of-rising-china/6748427.html (2022.9.15)

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
武内進一	その他	South China Morning Post	“Japan’s Africa aid rivals China in terms of ‘quality over quantity’: analysts” 取材協力	https://www.scmp.com/week-asia/economics/article/3194364/japans-africa-aid-rivals-china-terms-quality-over-quantity (2022.10.2)
中山俊秀	テレビ	日本テレビ「クイズ！あなたは小学5年生より賢いの？」	クイズ問題監修	

5.4. 外部資金の獲得

5.4.1. 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
石川博樹	科学研究費 基盤研究 (C)「第2次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究」(21H00556)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1~2025.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(C)「カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究」(18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1~2024.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤研究 (B)「現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化」(22H00769)	文部科学省	2022.4.1~2026.3
品川大輔	科学研究費基盤研究 (C)「バントゥ諸語に見られる類型間連動関係の研究」(19K00568)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1~2022.3.31
品川大輔	二国間交流事業共同研究 (ベルギー (フランダース) との共同研究)「バントゥ諸語の過去と現在：マイクロ類型論, 歴史比較言語学, 辞書学の統合による新展開」	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1~2022.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究 (A)「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」(21H04390)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.5~2026.3.31
武内進一	科学研究費 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))「アフリカにおける農村資源管理と国家—ガーナとルワンダの比較研究」(19KK0031)	文部科学省・日本学術振興会	2019.10.7~2023.3.31
中川裕	科学研究費 挑戦的研究(開拓)「カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤」(22K18249)	文部科学省・日本学術振興会	2022.6.30~2027.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(A)「言語音の多様性の外縁の理解拡大：3 基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論」(20H00011)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2025.3.31
中川裕	科学研究費 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))「カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係：クリックとポリリズム」(18KK0006)	文部科学省・日本学術振興会	2018.10.9~2023.3.31

代表者名	資金名	資金提供元	期間
中山俊秀	科学研究費 基盤研究(B)「言語喪失の動態の研究：沖永良部語若年層話者における言語消滅メカニズムの解明」(20H01257)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2024.03.31
中山俊秀	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「タイ少数民族における持続可能なコミュニティ協働型言語・文化ナレッジベースの構築」(20KK0007)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2023.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究(C)「生命科学技術による国際秩序変容の分析：生体情報を用いた移民管理の普及を事例として」(21K01367)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1~2025.3.31
村津蘭	科学研究費 研究活動スタート支援「感覚による信念の生成ーベナンにおける精霊マミワタを事例として」(20K22040)	文部科学省・日本学術振興会	2020.9.11~2024.3.31
大石晃史	科学研究費 特別研究員奨励費「敵の敵は友か：国際関係における構造バランスの検証」	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2023.3.31
大石晃史	科学研究費 基盤研究(C)「公共サービスをめぐる紛争の解決モデル：ラテンアメリカを事例として」(20K04995)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2023.3.31

5.4.2. 分担者

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
石川博樹	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカ食文化研究の新展開：食料主権論のために」(18H03441)	文部科学省・日本学術振興会	藤本武(富山大学)	2018.4.1~2022.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開」(20H01409)	文部科学省・日本学術振興会	島田将喜(帝京科学大学)	2020.4.1~2024.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「焼畑による地域資源の活用と創出：日本各地の焼畑復活から描く食・森・地域の再構築」(21H03697)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治(京都先端科学大学)	2021.4.1~2025.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(C)「フィールドの共創的な再現：差異と類似をめぐる教育実践から構築する公共的な人類学」(21K01057)	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宜子(京都大学)	2021.4.1~2023.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と『在来の技術革新史』への視角」(18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	杉山祐子(弘前大学)	2018.4.1~2023.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤研究(B)「富の体現、再配分政治に対する実践とアセンブリ形成：アフリカ都市中間層ボトムの研究」(22H03833)	文部科学省	白石壮一郎	2022.4.1~2026.3

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
椎野若菜	二国間交流事業 ウガンダ(OP)との共同研究 「東アフリカのポスト大学大衆化状況と人社系の進路決定：その考慮事項と選択構造の解明」	日本学術振興会	白石壮一郎	2022.4.1~2024.3.
椎野若菜	科学研究費挑戦的研究(萌芽)「ケニアのスラムにおける映像民族誌及びデジタルアーカイブのメディアアートの拡張」(19K21670)	文部科学省・日本学術振興会	野口靖 (東京工芸大学)	2019.6.28~2022.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤研究 (C)「A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages」(20K00578)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勳 (国際基督教大学)	2020.4.1~2023.3.31
品川大輔	科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 「Microvariation in Bantu languages of South Africa: building theories from typology data」(21KK0005)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勳 (国際基督教大学)	2021.10.7~2027.3.31
武内進一	科学研究費 学術変革領域研究(A)「紛争影響地域における信頼・平和構築」(20H05829)	文部科学省・日本学術振興会	石井正子 (立教大学)	2020.11.19~2025.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(B)「社会運動における生存権・生存思想の影響とその射程に関する基礎的研究」(21H03702)	文部科学省・日本学術振興会	友常勉 (東京外国語大学)	2021.4.1~2024.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(S)「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」(22H04929)	文部科学省・日本学術振興会	高田明	2022.4.27~2027.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究 (B)「国際移民をめぐる地域協力枠組の比較研究：アジア・アフリカ・中東・中南米の事例分析」(21H00686)	文部科学省・日本学術振興会	明石純一 (筑波大学)	2021.4.1~2025.3.31
村津蘭	科学研究費基盤研究 (B)「仮想空間における宗教的遠隔治療に関する情動・感覚の文化人類学的研究」(21H00650)	文部科学省・日本学術振興会	De Antoni Andrea (京都大学)	2021.4.1~2024.3.31
Kinyua, Laban Kithinji	日立感染症関連研究支援基金 領域開拓型研究「Exploration of Practical Wisdom and Resilience Overcoming Downside Risk - Collecting grassroots voices in Africa under COVID-19」	日立財団	華井和代 (東京大学)	2021.12~2024.11
大石晃史	科学研究費 基盤研究 (B)「サイバーフィジカル融合のもとでのグローバル・ガバナンス:持続可能な平和を目指して」(22H00815)	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人 (東京大学)	2022.4.1~2025.3.31

5.5. 受賞

受賞者名	受賞名	授与団体	日付	掲載 HP (URL)
石川博樹	日本ナイル・エチオピア学会第 31 回 学術大会最優秀発表賞	日本ナイル・エチオピア学会	2022/4/17	日本ナイル・エチオピア学会： https://www.janestudies.org/?page_id=1031 東京外国語大学： http://www.tufs.ac.jp/NEWS/2022/220426_1.html
大石高典	大同生命地域研究奨励賞	公益財団法人 大同生命国際文化基金	2022/7/26	https://www.daido-life-fd.or.jp/business/presentation/encouragementaward/5220
大石高典	第 12 回 (2022 年度) 地域研究コンソ ーシアム賞・社会連携賞	地域研究コンソーシアム	2022/11/19	http://www.jcas.jp/jcas2022.html